

道徳学習指導案

対象 第3学年

1 主題名 国際社会への貢献 4－(10)

2 資料名 「日本とトルコの懸け橋となる ー山田寅次郎ー」(「心みつめて」東京都教育委員会)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

国際化の進展は目まぐるしいものがあり、我々が日本の中で生活していく上で、世界との関わりを持たずして生活することは既に不可能になっている。中学生には国際的視野に立ち、世界の中の日本人であることを自覚することが必要である。今後、自分たちも国際社会の中で生きていくのだという事を実感させたい。

(2) 生徒の実態について

自分の所属する小集団の中での関係性ばかりに気をとられる生徒が多い。また、自分の所属する組織(国や地域、学校、家族など)がそれぞれ独立した存在であるかのような考えを持っているようにも見受けられる。友人というミクロな関係であれば、相互の関係性に考えを及ぼせることが可能でも、マクロな視点になるに従い、他との関係性が見えなくなる。これは一重に、自分の所属しない集団に対して、無関心と無知が負の連鎖になるからだと考える。此度の授業によって、最もマクロな、国という組織としての他国との相互関係に思いを馳せ、国際社会の中の日本人として自分に何ができるのかを考える心情を育てていきたい。

(3) 資料について

山田寅次郎がトルコの軍艦エルトゥールル号の遭難事故に心を痛め、義援金集めに奔走する話である。はるばるトルコから来日した国際的客人の事故として、彼は非常に心を痛め、義援金を直接トルコに届けるとともに、トルコとの国交を開くため、尽力する姿が描かれている。

この資料には、国際社会の一員として自覚をもつということがどういうことなのか具体的に描かれている。これをきっかけに、国際人として生きようとする意志と、そうなる事の大切さを理解させてく。

4 本時の学習

(1) ねらい

世界の中の日本人であることの自覚を深め、他国を理解し日本の文化を伝え、国際人として生きていこうとする態度を育てる。

(2) 指導過程

| | 学習活動と○主な発問 | ・予想される生徒の反応 | ●教師の働きかけ ○指導上の留意点 |
|----|---|----------------------|---|
| 導入 | 1 海外へ行く事について考えてみる。 ○「海外に行きたいか。また、なぜそう思うか。」 | ・行きたい。日本以外の文化に興味がある。 | ●挙手、指名により発表させる。(T1) ○海外に行く事について考えさせ、資料 |

| | | | |
|----|---|---|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・行きたくない。言葉が通じない。 | <p>への導入を図る。トルコの場所、トルコが親日国であることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●トルコの地図を黒板に貼り出す。(T2) |
| 展開 | <p>2 資料「日本とトルコの懸け橋となる」を読み、次のことについて考え、語り合う。</p> <p>発問①『君がトルコへ直接持って行ったらどうだろうか。』と言われた時、寅次郎はどんな気持ちだっただろうか。』</p> <p>発問②「寅次郎がトルコに滞在を決めたのはなぜか。」</p> <p>発問③(中心発問)「長きにわたり、日本とトルコとの国交樹立に尽力したのは、どんな思いがあったからだと思うか。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><小集団による語り合いと書く活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ワークシートに自分の考えを記入する。 2. 小集団による話し合いを行う。 3. 話し合いの後、再び自分の考えをワークシートに記入する。 <p><学級全体で考えを共有する></p> <p>数人が自分の考えを発表し、学級全体で語り合う。</p> </div> <p>3 世界の中の自分について考える。</p> <p>発問④「自分が世界とつながるには、どんな方法があるだろうか。」</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを直接伝えられるので嬉しい。 ・国際社会で生きる理想を実現でき、興奮。 ・せっかくなので機会だから引き受けようと思った。 ・国際社会の場に身を置くことが嬉しかったから。 ・日本とトルコ双方に互いの良さを伝えたい。 ・外国人である私をここまで評価してくれたトルコと国として仲良くなりたい。 ・外国語を学ぶ。 ・外国の文化や特徴を知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ●資料名を黒板に貼る(T2) ●資料を朗読する。(T2) ●発問カードを黒板に貼る(T2) ●挙手、指名により発表させる。(T1) ●生徒の意見を板書する(T2) ○主人公の気持ちに共感させる。 ●発問カードを黒板に貼る(T2) ●挙手、指名により発表させる。(T1) ●生徒の意見を板書する(T2) ○日本をしばらく離れる寂しさに触れ、主人公の気持ちの強さを捉えさせる。 ●発問カードを黒板に貼る(T2) ●挙手、指名により発表させる。(T1) ●生徒の意見を板書する(T2) ○単なる興味ではなく、日本という国の一人として、それに恥じない努力をしていた点に注目させる。 ●発問カードを黒板に貼る(T2) ●挙手、指名により発表させる。(T1) ●生徒の意見を板書する(T2) ○身近なことから世界に繋がっている事、また既にその中に身を置いていることを実感させる。 |
| 終末 | <p>4 今日の授業で感じたこと、考えたことを書き、発表する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・他国の事を理解していきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ●挙手、指名により発表させる。(T1) |

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・日本人として国際的に何ができるのかを考えたい。 | |
|--|--|--|--|

(3) 評価の観点

- ・世界の中の日本人であることの自覚を深められたか。
- ・他国を理解し、日本の文化を伝え、国際人として生きていこうとする態度を育てる事ができたか。

5 板書計画

| | | | | |
|--|---|--|---|---|
| <p>日本とトルコの懸け橋となる</p> <p>山田寅次郎</p> | <p>トルコに赴くことを提案された時の気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを直接伝えられるので嬉しい。 ・国際社会で生きる理想を実現でき、興奮。 | <p>トルコでの滞在を決めた理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せっかくの機会だから引き受けようと思った。 ・国際社会の場に身を置くことが嬉しかったから。 | <p>国交樹立に尽力した時の思い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本とトルコ双方にお互いの良さを伝えたい。 ・外国である私をここまで評価してくれたトルコと国として仲良くなりしたい。 | <p>君たちと世界との懸け橋とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語を学ぶ。 ・外国の文化や特徴を知る。 |
|--|---|--|---|---|